

会 議 要 旨 書

会議名	第4期三鷹市生涯学習審議会第3回定例会 第33期三鷹市社会教育委員会第3回定例会
日 時	令和6年2月13日(火) 18時30分～20時30分
場 所	三鷹市生涯学習センターホール
出席委員 (17人)	田中雅文 矢崎喜美子 齋藤智志 廣瀬圭子 青木玲子 生田美秋 鎮目司 間部豊 澤田達也 永田和昭 和田光広 進邦徹夫 東山昌央 藤橋初美 富澤昌人 加藤綾子 千田妙子
欠席委員 (3人)	小林七子 並木茂男 井上翔太
行政職員 (5人)	スポーツと文化部長 大朝摂子 スポーツと文化部調整担当部長・生涯学習課長 齊藤真 教育部調整担当部長 松永透 生涯学習課主査 中西崇郎 同主事 齊藤満里奈
会議の公開・ 非公開	公開
傍聴人数	0人
<p>1 開会 (事務局より委員の出席状況、傍聴者の有無、会議要旨の公開について報告し、配付資料の確認を行った。)</p> <p>2 議題 (1) 高齢者自主グループ講師派遣事業の講師変更について 【事務局】高齢者自主グループ講師派遣事業については、令和5年4月21日に開催した前期の第8回定例会において、委員の皆様にご意見を伺い、講師派遣団体を決定した。このたび1団体より、派遣決定された内容について変更したい旨の申出があったので、三鷹市高齢者自主グループ講師派遣事業実施要領第7条第2項の規定に基づき、委員の皆様にご意見を伺いさせていただきます。</p> <p>資料1をご覧ください。申請団体は憲法を学ぶ会で、変更理由は、当初予定していた講師の方が現在海外へ行ってしまっているためである。変更前の講座名は「生活の中の憲法」、講座内容は「分かりやすい、やさしい言葉で憲法を学ぶ。生活に憲法はどうかかわるか」である。講師は弁護士の山本有司さんの予定であった。</p> <p>変更後については、第1回目の講座名が「生活の中の憲法～暮らしの中の憲法を考える」、第2回目が「生活の中の憲法～憲法と私たちの身近な人権」に変更となる。講座内容については、変更はない。講師は、第1回目が武蔵野美術大学造形学部教授の志田陽子さん、第2回目が弁護士の吉田朋弘さんに変更となる。</p>	

【会長】 どなたかご意見はあるか。

～意見なし～

(2) 第5次三鷹市基本計画（1次案）について

【スポーツと文化部調整担当部長】 現在、三鷹市では第5次三鷹市基本計画（以下「5次計」という。）の策定を進めており、資料2-2のとおり「広報みたか」の特集号で、1次案を公表した。5次計の策定に当たっては、今回、市民参加の協議会として「マチコエ」という組織を立ち上げ、市民の声を反映しながら取組を進めているところである。5次計ではまず、まちづくりのビジョン、それから取り組むべき施策の方向性を定め、目標年次を令和9年度に設定し、計画人口は将来人口推計を踏まえ19万人としている。また、施策の達成度を測る指標としてKGIを設定し、策定時における数値を維持・向上させることを目標としている。生涯学習については、第8部に記載のとおり、生涯学習活動に取り組んでいる市民の割合として49.7%を設定している。この数値は、令和4年10月に実施した市民満足度調査の結果を基に算出したもので、何らかの生涯学習活動を行っている市民の割合になる。

次に、資料2-1をご覧ください。こちらは5次計の1次案の抜粋である。体系としては、総論と各論に分かれており、第Ⅱ編各論の第8部の第1に生涯学習という項目を設けており、先ほどの「マチコエ」での市民の声や、昨年度、本審議会からいただいた意見書のご意見等を踏まえた内容となっている。

第8部の第1にある生涯学習について、まずは施策の課題と方向性である。生涯学習・社会教育の観点から、引き続き学習環境の整備に取り組むとともに、学習者の学びの段階に応じた多様な学びの機会の確保と情報提供に努めていく。また、学習の成果を地域社会に還元していく「学びと活動の循環」を推進する。

次に、主要事業である。こちらは計画期間の令和9年度までに取り組む事業となり、主なものについて説明する。「1 生涯学習の基盤づくり」(1) 生涯学習センターを拠点とした生涯学習環境の充実である。生涯学習に対する市民ニーズを把握し、生涯学習センターを拠点とした生涯学習環境の向上に努めていく。(2) 生涯学習を担う機関との連携・協働による生涯学習の推進については、三鷹ネットワーク大学やスポーツと文化財団、大学等の研究機関など多様な関係機関と連携・協力し、ネットワークを生かした生涯学習の機会と場の提供を図っていく。

次に、「2 多様な学びの機会と情報の提供」(1) 学びの段階に応じた学習機会の提供である。こちらは、本審議会からいただいた意見書を踏まえ、学習者の熟度、学びの段階に応じた学習プログラムを提供するなど、講座の充実を図っていく。(2) ライフステージ別学習機会の充実については、こちらも本審議会からの意見書を踏まえ、人生100年時代を見据え、リカレント教育の充実など、子どもから大人まで幅広くライフステージに応じたプログラムを実施していく。(3) 生涯学習情報の提供については、「マチコエ」からの要望を踏まえ、SNS等を有効に活用した情報発信を行うなど、必要な情報に容易にアクセスできるような環境整備を図っていく。

次に、「3 人財の育成と活動の場の提供」(2) 学習成果を生かすための活動の場の提供で

ある。習得した学習成果をボランティア活動や社会貢献につなげることにより、地域社会に還元する仕組みを構築していく。(3) 相談体制の充実については、本審議会からの意見書や、「マチコエ」からの要望を踏まえ、市民の学びを支援するコーディネート機能の強化を図っていく。

最後に、主要事業の達成度を測る指標としてKPIというものを示している。先ほどのKGIは、施策全体の最終目標になるが、このKPIは、KGIを達成するための各主要事業の達成度を測る指標として設定しており、記載のとおり3項目を指標としている。具体的な数値については、2次案の中で示していく。

今後のスケジュールについて、現在は2次案に向けて修正等行っており、最終的に5次計が確定するのは今年の6月議会となるので、この間にお気づきの点等があれば、事務局にご意見いただければと思う。

【会長】 今日この場で意見が出た場合、それを受け止めていただき、可能な限り5次計に反映していただけるということか。

【スポーツと文化部調整担当部長】 その通りである。

【会長】 資料5のとおり、前期の本審議会において意見書を提出した。この意見書の中で提案していることを、かなり取り込んでいただいたというふうに理解している。

意見書は、第1章から第4章までの構成となっている。第1章「学びと活動の循環」については、5次計の最初の部分に「学びと活動の循環」を推進すると書かれている。この第1章の中で、学びの段階ごとに考えていくということが提言されていて、5次計の2番目の(1)で、学びの段階に応じた学習機会の提供という形で記載していただいている。

また、意見書の第3章「人生100年時代」については、5次計の2番目の(2)に記載されている。

意見書の第4章「新たなコミュニティ」については、かなり広い考え方になるが、5次計の3番目の(2)がそれに相当すると考えられる。「コミュニティ」という言葉をそのまま出すと、別にあるコミュニティ政策との区別がわかりにくくなるために、あえて出していないという理解でよいか。

【スポーツと文化部調整担当部長】 5次計は、第4次三鷹市基本計画(以下「4次計」という。)よりもかなりシンプルになったということもあり、ここで掲げること以外の細かいことについては、個別計画である三鷹市生涯学習プランに掲載していくことになる。

【委員】 4次計と5次計で大きく変わったところはどこか。

【スポーツと文化部調整担当部長】 大きく変わったのは、計画期間である。これまでは12年間の計画期間であったが、5次計では令和9年度までの4年間という短い期間になっている。そのため、主要事業が盛りだくさんな部分があったが、5次計ではそういう部分を少なくし、すごくシンプルになっている。

【スポーツと文化部長】 5次計ではすべてのページにおいて、KGI、KPIという数値目標を設定している。私どもが担当しているスポーツや生涯学習の分野では、これまでもスポーツ実施率等についての目標値を掲げ、それに対する実績値を出してきたが、今回の5次計では、全てのページについて、ゴールとして目標にする数字をまず掲げ、それを実践していくための実績を基にした目標数値を挙げていくというような構造になっている。

5次計の1次案では、KPIの具体的な数字はまだ載っていないが、2次案では、令和4年度の実績を基にして令和9年度の目標値を挙げていくということになる。2次案に入っていく際には、本当にこの数字の目標でいいのか、あるいは皆様の活動をどのように数値目標にしていくのかなど、そういうことが考え方としてとても重要になってくる。

先ほど申し上げたとおり、5次計からは計画期間を4年にしたことと、かなりボリュームを少なくしたことにより、4年間にやる主要なものだけを書くというような構造にし、4次計にあったような中長期的な見通しであるとか、施策の方向性として目指していくものというのは、各個別計画により詳しく書かれるというような構造になる。そのため、三鷹市生涯学習プランの見直しの部分についてもセットになって進んでいくことになる。

【委員】第8部の図書館の指標について、1か月に1日以上三鷹市立図書館を利用している市民の割合となっているが、この数値は来館者のみなのか、それとも、図書館のホームページのアクセス数であるとか、そういったものもこのKGIのカウントの対象になるのか。

【教育部調整担当部長】この調査を行った段階では、電子書籍やホームページのアクセス数ということは想定してなく、基本的には来館者数を想定している。

【委員】今後調査するときは、そういったデジタルな数値も含めて活用される可能性はあるのか。

【教育部調整担当部長】基本的にはこの数字を掲げた段階とその後で、数字の取り方が変わってしまうと問題があるのかなとも思うので、図書館と相談してみたい。

【委員】図書館利用者数の15.1%という数字について、無作為で抽出された満15歳以上の市民3,500人に調査票を郵送し、1,529人から得た回答結果の数字であると書かれている。つまり、この人たちが利用した数値が書いてあるわけで、図書館で市民が何人利用したということではないと思うが、いかがか。

【スポーツと文化部長】基本計画を策定する際に、4年に1回、市民満足度調査を実施している。スポーツと文化部では、4年に1回の市民満足度調査を中心にして目標値を立て、例えば生涯学習のイベントに市民の方がどれくらい来てくださっているかという実績数値を出して、業務の性質上、全体に対する割合というのは意識調査をしないと分からないという構造になっている。

図書館の場合はちょっと難しく、例えば全ての市民に対して何人の方が図書館カードを持っているか、またその中で実際に来館していらっしゃる方がどれくらいいるのかというのは、データの的には取れると思う。しかし、今回のKGIは、市民満足度調査の中で取った比率となっている。この数字は、調査対象者の中でのパーセンテージであるが、基本的には統計なので大きな差がないという前提で調査を行っている。

【委員】図書館で目標設定をしていて、それに対しての達成度ということではないということではよろしいか。

【スポーツと文化部長】その通りである。図書館では、実際の来館者数の数値を取っていると思うが、この意識調査の中では、図書館を利用している市民の割合は15.1%しかいないということである。様々な読書活動をしていらっしゃる方もいると思うので、必ずしも図書館を利用するわけではないという面もあるかもしれないが、公共の図書館としては、興味を持って年に

何回かでも来ていただく方が増えるということがミッションとしてはあると思う。そういった議論を、図書館のページの中でしていくということではないかと思う。

【教育部調整担当部長】図書館の実際の利用者数、あるいは有効登録者数がどのくらいいるのかということ、KPIの指標とすることで、KGIの達成度との乖離みたいなものが見えてくるかもしれないと思っている。

【委員】図書館のKGIについて、これまで取ってきた数値の中で、継続的に取れる数値であって、かつ、今後、図書館の利用者がどれくらい増えていくのか、どれだけサービスを受けたいと考えている方が増えていくのかということが測りやすい数値ということで、こちらを選んだということだと思う。

5次計の中で、第8部が生涯学習、図書館、芸術・文化、スポーツと分かれているが、一般的に生涯学習の枠組みの中に、図書館や芸術・文化、スポーツも含まれると思う。第1で生涯学習全般について方針を示して、それを受けて第2、第3、第4で具体的な各サービスの方針を出していくというような構造なら理解できるが、現状はそうようになっていないようだが、いかがか。

【スポーツと文化部調整担当部長】第1の生涯学習のところで、生涯学習に関連する施策の方向性や主要事業を記載している。第2以降に図書館、芸術・文化、スポーツとあるが、その他のところでもコミュニティなどもあり、そのところで生涯学習に絡むことであれば、そういった記載がまた入るかと思う。

また、一番重要なコミュニティの創生というところでは、やはりコミュニティ・センターでの生涯学習というところもあるので、そういったところが絡めば記載が入ってくると思う。

【委員】生涯学習については、KPIの指標として3つ挙げられているが、これは本文に書かれている施策について、それぞれの利用者数（KPI）が増加したら、その施策全体がうまくいったことになるというのが前提になっているのか。

【スポーツと文化部調整担当部長】KGIを達成するための個別事業での指標になるので、ここに掲げている主要事業のKPIが直結するということはないが、この主要事業を充実させていけば、KPIとしての数値も上がるであろうという考え方で設定している。

【委員】より具体的な個別的な中身についての検証みたいなものはどのようになされるのか、あるいはなされないのか。数値評価というのは、いつも難しいと思っている。例えば、学習者の学びの段階に応じた多様な学びの機会の提供とあるが、その多様な学びを本当に提供できたのかというのを、どのように測るのか。あるいは、「学びと活動の循環」を推進するとあるが、「学びと活動の循環」が推進されたかというのを、何を見て評価するのか。

【スポーツと文化部長】5次計では、主要なところだけを集中的に書くというようなページ構成になった関係で、そのような検証作業も含めた形での記載は、ここでは全ての分野についてカバーできない。それを補完していくのが、個別計画になる。5次計に記載している主要事業一つ一つについて、例えば多様な学びというのはどういうものかというのは、より具体的な施策を個別計画の中で示して、その目標や施策の方向性が達成されたかどうかというのは、この5次計で示されているKGI、KPIとは別に、より具体的な達成目標のようなものや、評価をするということを前提にしたページ構成になっていくと思う。

【会長】よくアウトプットとアウトカムの違いということが言われる。アウトプットは、提供した事業そのものがアウトプットであり、その結果どういう効果が生まれたか、それがアウトカムだと言われることが多い。生涯学習の推進の場合の効果というのは、市民が学んだ結果どう変わったかである。5次計の場合は、全てアウトプットで評価できるものであると思うので、どれくらいアウトプットがプラスアルファなされたかというのを試してみるとよい。

KGIについては、生涯学習のことであれば学習実施率などで評価することが多いが、市民の生涯学習、学習活動というのは、当然行政の事業以外のところからも刺激を受けて変わる。その中で、行政のもたらした影響がどれくらいあるのかというのは、簡単に測ることができない。一方、図書館については、施設にどれくらい人が来たのかで、はっきりと測ることができる。生涯学習の場合、例えば生涯学習センターの利用率とか、生涯学習部門の所管する施設の利用率がどうなったか、それなら割と分かりやすいが、それだと行政が市民を困り込むような感じになってくるというのもあるので、それを指標にするだけでは難しい。そのため、やはりアバウトにしか捉えられないということだと思う。行政としては市民の学習活動を活発にするためにいろいろな施策を打って、実際にこれだけ学習率が伸びたということであれば、行政の施策事業の影響もいくらかあったらというように、大まかに評価するような感じかと思う。また、国が行っている生涯学習に関する世論調査の項目に合わせていくと、全体との違いも見えるので、便利かなと思う。令和4年に実施された世論調査では、学習実施率が7割を超えている。これまでは5割前後で推移していたが、急に7割を超えた。この何年かの間で激しく変わったのは、インターネット利用率とインターネットで学ぶという希望がぐんと上がってきているという特徴がある。それと比べて、三鷹市では49.7%であり、項目の聞き方の違いで差が出ていると思うので、今後、長期的に考えた場合、国の聞き方と合わせておくと、比較もできてよいのかなと感じた。

5次計について、最初に記載されている施策の課題と方向性のところでは「学びと活動の循環」という生涯学習プランのキーワードがしっかり入っていてよいと思う。しかし、具体的な中身でいくと、3番の(2)が、学習成果を生かすための活動の場の提供となっている。ここについても、学習成果を生かすだけではなくて、その結果から新たな学習課題が起こって学んで、それがボランティア活動や市民活動に生きるという、どんどん相乗効果で発展していくようなイメージになる表現にした方がよいのではないか。

また、活動の場の提供という表現について、生涯学習行政の範囲だけであれば問題ないが、例えば環境保護や福祉に関する活動の場も提供するというのは、生涯学習行政の範囲を超えているので、少し難しい話ではないかと思う。つまり、こちらで提供するというよりも、いろいろな活動の場について紹介する、あるいはつなぐといった、ボランティア活動のマッチングみたいなものも含まれると思うので、活動の場の提供という表現よりも、(2)は、「学びと活動の循環」の仕組みを充実させるとか、そういうような表現がよいのかと思う。(2)の本文についても、学んで生かすだけではなく循環というイメージを入れていったほうがよい気がする。一般的に、生涯学習行政は教育委員会にあることが多く、なかなか一般行政のまちづくりの課題とつなぐのが難しいと言われるが、三鷹市は生涯学習行政が一般行政にあるので、部局間の連携もしやすいのではないかと思う。一般行政の様々な市民活動の場とうまく学びの場を

つなげていくという、そういったことを（２）で表現し、それによって「学びと活動の循環」を豊かにしていくというような表現になるとよい。

(3) 三鷹市生涯学習プラン 2027 について

【事務局】資料 3 をご覧いただきたい。現在、5 次計の策定期間となっており、今年の 6 月議会を経て、策定されることになる。それに伴い、各個別計画を今年の 4 月から来年の 3 月までの 1 年をかけて策定していく。来年 1 月頃には、市民の方のご意見を伺うパブリックコメントも予定している。

本審議会に関しては、本日が第 3 回定例会となり、5 次計（1 次案）及び三鷹市生涯学習プラン 2027（以下「プラン 2027」という。）についての議論となる。第 4 回定例会は 4 月 26 日（金）に予定しており、社会教育関係団体補助金等の支出について、5 次計の 2 次案について、プラン 2027 についての議論を予定している。第 5 回定例会では、社会教育関係団体補助金の支出について、5 次計について、プラン 2027 についての議論を予定している。第 4 回、第 5 回の定例会の中で、プラン 2027 の大きな項目立てや骨格案などをお示ししていきながら、その中でいただいたご意見を反映させつつ、プラン 2027 の策定を進めていく予定である。第 6 回定例会では、プラン 2027 の素案をお示しして、細かいところまでご確認いただき、ご意見をいただければと考えている。そして、来年 2 月の第 7 回定例会までには、皆様からいただいたご意見や、資料 5 でお配りしている意見書、さらには「マチコエ」からの意見との整合性も確認しながら、本審議会への諮問・答申を行い、3 月にはプラン 2027 を策定することとなる。

【会長】プラン 2027 について、本審議会でのいろいろな意見を出しながら、それを事務局でまとめていただくというイメージでよいのか。

【スポーツと文化部長】その通りである。

【会長】本日は、三鷹市生涯学習プラン 2022（第 2 次改定）（以下「プラン 2022」という。）をベースにして、新しいプランについてのアイデアを出し合うのか、それとも、スケジュールの確認ということでのよいのか。

【事務局】本日配付しているプラン 2022 の体系等について、細かい内容ではなく、大まかな事項の中で何かご意見があればお伺いさせていただきたい。

【委員】第 4 回、第 5 回の定例会ではどこまで決めるのか。

【スポーツと文化部調整担当部長】第 4 回定例会では、柱立てや項目だけでもある程度たたき台をお示ししたいと思う。その後、素案の作成に向けて、その中身について詰めていきたいと考えている。

【会長】今後の進め方について、グループに分かれて雑談形式にすると意見が出やすいかもしれない。

【スポーツと文化部長】プラン 2022 について、12 年間という長い計画期間で、コロナ禍で 1 年期間を延ばしたりしているので、内容としては古くなっているものもあるかもしれない。そこで、今ならこういうキーワードが重要ではないかとか、こういう新しいアイデアが入ったほうがよいのではないかとか、今の時代に合った内容にしていくために、本日は自由な発想でのご意見をお聞かせいただければと思う。

【委員】一人でも多くの市民に読んでもらえるものにする必要がある。また、部分的にでもよいので、三鷹らしさを出していただきたい。そして、未来志向であってほしい。前期の本審議会において、人生100年時代を見据えた様々な生涯学習のあり方についてグループで議論したので、これからは見据えて、私たちは何に向かって、どういう方向性で計画を持ってやっていくのかというのを大胆に打ち出していきたい。

【委員】今の子どもたちが三鷹の未来を作っていくと思うので、市民満足度調査における図書館のアンケートなど、子どもたちも調査対象にしたらいと思う。また、図書館に来るだけではなくて、図書館から学校に本を貸し出ししたりしているので、そういった本への関わりについても入れたほうがよいのではないかな。調査項目によって対象の人も違うし、未来を担う子どもたちのことも考えながら策定していきたい。

【会長】生まれてから亡くなるまでが生涯学習の範囲であるが、生まれる前の胎教についても三鷹市は大事にするというのもよいかもしれない。

【委員】一般の人にも分かりやすい体系がよいと思う。本当に参加したい人に情報が届くような形にできるとよい。

【委員】三鷹市は歴史がある場所だと思うが、その歴史を大事にしていけるような施設がないと感じている。一教室を資料室としている学校があるが、一般には開放していない。

【会長】最近、シビックプライドなど市民意識の向上という言葉が使われている。その基本は、自分たちの住んでいる町について興味を持って知るというもので、その意味では歴史を学ぶことに興味を持つ人は多いと思う。三鷹市は文学者を大事にしているので、文学館があるとよいと思うし、それも含め歴史全体をさらに大事にして、市民が親しめるようなものができるとうい。

【委員】これからの市のづくり手である子どもたちや中高生の声を聞くということは、とても大事だと思う。彼らが見て本当に読んでくれるかどうか。例えば漫画でもよいと思うし、あとはパブリックコメントで、彼らが興味を持つかというところで、大人の意見だけではなくて、彼らに意見をしっかり聞くといったところは、それもざっくばらんにいろいろ言ってもらおうというのは、すごく大事なことだと思う。

【会長】三鷹市に関係している大学生や子どもの意見を聞けるタイミングがあるとよい。

【委員】プラン2022は、どこの自治体でも通用するような内容になっている気がする。三鷹市はいろいろと先進的なイメージがあるので、惜しい。行政計画なので、計画自体は堅い内容でもよいと思うが、それを外に説明するときには、少しかみ砕いて説明する必要がある。

アウトプット、アウトカムの上に、さらにソーシャルインパクトという話も最近出てきているので、その辺も視野に入れて計画づくりをしていただければと思う。つまり、どのように社会をつくっていくかという話で、基本目標のところはそれに当たると思うので、そこにつながっていくような数値目標を、KGI、KPIに設定していくということがとても大事だと思う。図書館や生涯学習センターにおいて、アウトプットだけではなく、アウトカムである利用者満足度を入れられるとうい。

【委員】生涯学習や社会教育に関する仕事をしている人や、日々学んでいる人、図書館に行く人ばかりではないので、そのような人にも楽しく読んでもらえるようなものになればよい。集

合住宅などで、市報が捨てられているのが現実である。

【委員】 ページ数が多くて読んでいない人が多いと思う。また、文言が古く、もう少し軟らかい言葉になったらよい。男性だと 55 歳から 65 歳のプレシニア世代になって初めて学習というものに目が向くのかなと思うので、そういう人たちを取り込めるとよい。

【委員】 週 1 回以上スポーツ活動を行っている市民が 57.5%とあるが、小学生から成人、シニアまで、みんなスポーツに携わっているので、アンケートもそれぞれ取ったほうがよいと思う。東京都が発表している、週 1 回以上スポーツ活動を行っている人の割合は 56.3%であるが、このアンケート調査は 18 歳以上が対象である。また、スポーツ庁は 20 歳以上を対象に調査を行っている。つまり、調査対象の基準はないのかなと思う。であれば、いつそのこと三鷹市では全世代を対象にアンケートを取ったり、プランを漫画みたいに読めるようにしたり、SNS で使用しているキャラクターを載せるなどの工夫をしてみてはどうか。市民が楽しんでスポーツをして、心豊かに生きがいを高めるためにどうするかというので、目標と KGI と具体例を分かりやすく市民に届けられたらよいと思う。

【委員】 三鷹市における生涯学習の今後の展望について、様々な表現で分かりやすく市民に伝えられるようにしたらよいと思う。それと同時に、プラン 2027 は、三鷹市の生涯学習行政の基本的な計画なので、5 次計の生涯学習に含まれている部分が、プラン 2027 の項目としてしっかり反映できるような構成になっている必要がある。プラン 2027 には、図書館や芸術・文化、スポーツについても含まれるので、それぞれ 5 次計でどのようなことが取り上げられていて、それを受けてプラン 2027 としては、どう細かく考えていくのかというような構成をつくってもらったほうが、行政の計画としてはよいのではないかなと思った。

【委員】 前期のグループ検討をしていく中で出た課題と、「マチコエ」で出た課題で共通していたのが、情報発信に大きな課題があるという意見である。そうした中で、よい取り組みをしても、その情報が届いていない。例えば情報発信について、総論の中で情報誌にはこういうものがある、ホームページにはこういうものがあるといったことを記載し、各論の中でそれぞれの情報がどこで入手できるのかというのがすぐに分かるような構成にする必要があると感じた。

行政計画なので、基本目標やビジョンが抽象化しがちだとは思いますが、今回、5 次計の計画期間を 12 年から 4 年に見直したというのは、この間の社会情勢の変化が非常に激しいということ踏まえた上でのことだと思うので、そうであるならば、プラン 2027 のそれぞれのビジョンというのも、より具体的かつ数値で示すなど、見た方が具体的に分かりやすく共感できるようなものを設定したほうがよいと思う。また、ビジュアルに特化したダイジェスト版のようなものも、今の時代には必要だと思う。

【委員】 昨年度、芸術文化協会の 50 周年事業を実施したが、情報発信が足りず来場者が少なかった。子どもたちも含めて、実際に体を動かして、見る、聞く、行う、そのようなことが楽しいと感じられるような方向に持っていきたいなと思っている。

保育付きの講座のように、介護者付きの講座があってもよいかなと思う。

【委員】 人生 100 年時代なので、認知症の方を対象とした学習という視点もよいのかなと思った。共生社会の実現を推進するための認知症基本法ができて、認知症の方が主体で選ぶとか人

権を守るとかということが言われている。介護付き講座をすると、介護者と一緒に介護される人も来るので、その方に学びたいものを学んでいただいたり、自分の意見を言う表出の仕方を学んでいただいたり、認知症の方もそのレベルによって学ぶということもできるので、そういったものを提案する認知症対象の講座というのも入れてもよいかなと思った。

現在、伝承系や芸術・文化系のサークルが盛り上がっていて、歴史あるものを少し体験するような非日常的なものから学びたいという方が増えているので、三鷹市の土地の風土を考えたときに、芸術・文化というところをピックアップして、若者と伝承の知識を持っていらっしゃる様々な世代の方を合わせたようなものも入れてもよいのかなと思う。

各章に見開き2ページくらいのキーワードを入れたものがあったらよいのかなと思った。

【委員】三鷹らしさを出すときに、どういう切り口があり得るのか。すぐに思いつくのは、行政の先進的な取組という視点で言えば、スクール・コミュニティだと思う。あとは、三鷹固有の歴史も三鷹らしさなのかなとは思いますが、それ以外に三鷹らしさみたいなものを出そうとするときにどういう切り口があるのかを、いろいろ考えてみたほうがよいのではないかと。

プラン2022にあるような基本目標は、立てないといけないのか。

【スポーツと文化部長】これまでのプランにも基本目標があり、キャッチフレーズや理念として引き継がれてきているものだと思う。必ずしも必要ということではないが、一方で、長い間の継続をしていく部分、未来志向で未来に向かっていく部分の背後には、過去から持ってきたものを再評価して次へつなげるという考え方はあってよいと思うので、基本的には、同じように何か分かりやすいメッセージを一文に込めて発信していくということが必要ではないかと思う。

【会長】三鷹らしさや市民に親しみを持ってもらおうということ考えたとき、市民に向けての一言メッセージというか、コンセプト、想いが分かりやすくなっているとよいと思うが、限定的な言葉だと全体を網羅できなくなるため、一般的には普通の表現になってしまうということになるので、今後の議論の中で考えていきたいと思う。

【委員】最初に目標を立てるのではなく、最終的に出来上がった後にキャッチフレーズ化して目標にするということではどうか。

【会長】その通りである。

【委員】読んでもらえるような方向にシフトしないと意味がないし、漫画版はとてもよいアイデアだと思う。また、学生はスマホで見るので、当然スマホ版が必要である。例えば、生涯学習のキャラクターをつくったり、生涯学習アプリを作ったり、生涯学習に関わったらマイルが溜まったりというように、まずは関心を引くきっかけをつくるのが大事である。

杏林大学の図書館は、地元の人にも開放していて、多くの人がエントリーしている。つまり、三鷹市立の図書館は使っていないけど、他の図書館を使っているというような人もいないか。その人も、三鷹市の生涯学習の一翼を担っている人だと思う。そういう人をどのようにカウントするのかといったことを考えてもよいのではないかと。

例えば、学会や教員、個人がオンラインでちょっとした生涯学習に資するような事柄をやるという時に、その情報を三鷹市のホームページに載せられるようになっていると、すごく便利だと思う。そこで発信できるという形になっていると、その掲示板によってつなぐことができ

るのではないか。

行政文書なので、堅い表現になるのはある程度仕方ないと思うが、書き方を考えないといけない。例えば、生涯学習は必要だというのではなく、生涯学習ができなくなると何が困ると思うか、生涯学習がなくてもよいと思うかという問いかけをし、関心を引くことが大切である。

【副会長】このような行政的な、堅苦しい全て網羅された文書も必要ではないかと思っている。それを抛り所にしないと、いろいろな言い換えをしたときにぶれてしまう。そのため、多様なバージョンのプラン 2027 があってよいのではないか。

三鷹らしさということを考えたときに、キーワードとして落としてほしくないのは、平和、人権尊重、多様性、幸福感、それから地域協働である。

プラン 2027 では、コミュニティ・スクールやスクール・コミュニティに関する記載ではなく、「学校3部制」に関する記載を入れていただきたい。

図書館に関するところで、天文台の敷地内への移転が計画されている西部図書館も含めて、三鷹市の図書館のありようというものを、それに関わる人たちだけではなくて、三鷹市全体で考えていただければと思う。三鷹市では、いろいろな地域の人たちの活動があり、子どもの読書環境、子どもの本に関して多様な地域活動が活発にされている。その一つの代表が、星と森と絵本の家であり、そこを拠点として図書館と協働して、子どもたちの本づくりというのが、絵本の環境づくりというのが進めていけたら素晴らしいと思うので、それをプラン 2027 のどこかに盛り込んでいただきたい。ティーンエイジャーは図書館から離れてしまうとよく言われる。三鷹市では、ヤングアダルトのコーナーが全ての図書館に設置されていて、それなりに充実させてきているが、その世代のヤングアダルトの読書環境、それからヤングアダルトが参加しやすい、そういう図書館活動というのも、プラン 2027 の中にはぜひ盛り込んでいただきたい。また、三鷹市ではこのような構想を持っているということを記載することで、みんなが目標とかビジョンを明確にすることができるので、そのような夢のあるプラン 2027 にしていただきたい。

【会長】三鷹市は、都市農業がすごく活発だと思うので、生涯学習センターやネットワーク大学などでの生涯学習講座で、歴史も含め農業について学ぶというのも、三鷹らしさにつながると思う。

教育振興基本計画におけるキーワードとして、「ウェルビーイング」と「持続可能な社会の創り手」が挙げられているので、この辺りにも目配りしながらいくとよい。

三鷹市自治基本条例の柱は、「市民自治」と「行政との協働」である。この自治と協働につながっていく、それにインパクトを及ぼすような生涯学習政策でなければいけないと思う。

杉並区では社会教育が盛んで、教育プランに社会教育士の活用というのが入っている。杉並区には社会教育士が数名いて、区民と行政をつないでいる。協働ということを言ったときに、やはり市民と行政がつながっていかねばいけない。学び合いをするとか、コミュニケーションとか、その橋渡しをするのが社会教育士である。そういうことを考えると、三鷹市も、社会教育士の活用というのでも考えてみてよいかかなと思う。社会教育士を生涯学習センターや各公共施設に配置して、市民の学び合いをうまくコーディネートしてもらおうとか、行政とつなぐとか、そういうこともあり得るかなと思う。

3 報告

4月20日(土)午後1時から、調布市文化会館たづくりにて、東京都市町村社会教育委員連絡協議会の定期総会が行われる。三鷹市から5人の委員の方が表彰される予定なので、ぜひ多くの方にご参加いただきたい。

4 その他

今回は、令和6年4月26日(金)午後6時30分から、生涯学習センターで開催予定である。

—閉会—